

---

 学 会 記 事
 

---

## 第 54 回新潟化学療法研究会

日 時 平成 27 年 6 月 20 日 (土)  
午後 4 時～  
会 場 ANA クラウンプラザホテル新潟  
3F 飛翔の間

## I. 一般演題

## 1 血液透析患者におけるガレノキサシンの血清中濃度測定と蛋白結合率の検討

三星 知・片桐 裕貴・長井 一彦  
岡島 英雄\*・霍間 尚樹\*\*・穂苜 慎\*\*  
上野 和行\*\*\*

下越病院薬剤課  
同 内科\*  
佐渡総合病院薬剤部\*\*  
新潟薬科大学薬学部\*\*\*

キノロンの蛋白結合率は薬効に影響を与える可能性が報告されており、蛋白結合率の臨床的な影響は不明、フリー体は多い方が良い、蛋白結合率が高いと抗菌薬の効果に影響する (in vitro)、PZFX は血清アルブミン・グロブリンと結合する、尿毒症物質は蛋白結合を阻害するなどの報告がある。従って、腎障害患者や透析患者では蛋白結合率が変動し、薬物動態に影響を与える可能性が考えられる。我々は透析患者と非透析患者のレボフロキサシンの蛋白結合率を比較検討し同等であること、血液透析ろ過患者においてバズフロキサシンの蛋白結合率が大きく変動した症例を報告している。一方、ガレノキサシン (GRNX) はレボフロキサシンやバズフロキサシンよりも蛋白結合率が高いため、血清アルブミンや血清グロブリンの変動により蛋白結合率が変動しやすいと考えられる。今回血液透析患者におけるガレノ

キサシンの血清中濃度と蛋白結合率を測定したので報告する。

対象は下越病院・佐渡総合病院通院中の患者で非透析患者 7 名、透析患者 5 名において、血清中濃度は HPLC、蛋白結合率は限外ろ過法を用いて測定を行った。

非透析患者の蛋白結合率は 64.0%、透析患者の蛋白結合率は 59.2% と透析患者で低下傾向を認めた。血清総蛋白は両群で同等であったが、非透析患者では血清アルブミンが低く、透析患者では血清グロブリンが低い傾向を認めた。

通常成人のガレノキサシンの蛋白結合率は約 80% と報告されている。非透析患者の蛋白結合率が低かった原因として、高齢による血清アルブミンが低いことが原因として考えられた。透析患者での蛋白結合率が低い原因としては血清グロブリンが低いことが原因として考えられた。基礎的検討においてガレノキサシンは他のキノロン薬よりも血清グロブリンへの結合率が高かった。ガレノキサシンはグロブリンの影響を大きく受ける可能性があり、薬物動態が変動する可能性があるため、今後も検討が必要と考えられる。

## 2 テイコプラニン投与中に血小板減少を生じた症例

伊藤 敦子・中下 愛実・坂井 孝行  
金光 美徳・大石 昌典・手塚 貴文  
塚田 弘樹

新潟市民病院 ICT

## 【目的】

テイコプラニン (以下、TEIC) の副作用のひとつとして血小板減少が知られており、抗菌薬 TDM ガイドラインにおいても、TEIC のトラフ値が  $40 \mu\text{g/mL}$  以上で血小板減少などの副作用発現頻度が増加するとされている。

今回、トラフ値  $40 \mu\text{g/mL}$  以下の患者において、血小板減少を認めた症例を経験したので報告する。

## 【症例】

【症例 1】(77 歳、女性) 食道破裂疑いにて当院